

防犯カメラ



札幌・ススキノに設置されている道路の防犯カメラ

ススキノ街頭40台■地下歩行空間100台

犯罪抑止に効果

オウム真理教の高橋克也容疑者の逮捕にもつなげた防犯カメラの設置が、札幌市中心部でも進んでいる。ススキノでは道警が1月から40台以上を運用。札幌駅前地下歩行空間でも100台余りが取り付けられ、犯罪の発生や抑止に効果を見せている。全国的に不特定多数の人が被害に遭う凶悪事件が目立つだけに、設備に理解を示す市民が増えた一方、映像が適正に管理されるか、懸念する声もある。

(川浪雄介)

人通りが少ない日中の「静」と話す。価格は家庭用ススキノ、規模を上げる用が1台30万円、街頭用と、交差点や小路、ビルで50万、60万円という。の酒屋、飲食店のドアの前などあちこちに、防犯カメラが取り付けられて

いる。市は2007年に市内の状況を調べたところ、ビルや店舗の出入り口付近に8千台以上あり、大半はビルのオーナーや店員が設置している。防犯カメラが設置して

最近では、盗品物や道路管理者が路上に取り付け、防犯カメラを取り付けるケースも増えており、「二日酔アラーム(札幌)の抑止効果も出ている。」「出警数は5年前の2

治安悪い もっと増やして／常に見られる 気分悪い

映像の管理、運用に懸念も

法務省は、前年同期に比べ1割以上少ない305件。中でも強盗犯の件数は大幅に減少し、2割以上減った。

狸小路商店街や地下歩行空間でも同様の効果があるという。道警は、映像を無時、見ているわけではない。捜査に使うのは発光時の様子が写っている場合で、「監視ではない」と市民に理解を求め、地下歩行空間で休載していた手塚区の手塚園田駅子さん(54)は「犯罪が多いので、もっと増やしてほしい」と増設に肯定的。ススキノの飲食店で働く女性(28)も「帰宅は深夜なので、防犯カメラがあると安心できるが、常に見られているのは気分が悪い」と複雑な心境を明かす。

防犯カメラの問題は詳しい東京の市民団体「フライバシーアクション」の白石孝代表は「防犯は市民の助け合いが基本で、安否時に機械に頼るのは危険」とし、運用基準の整備などを求めている。